



クリスマスローズ(極楽寺)

わたしたちのまちの 景況レポート No. 32

2022 年 10～12 月期実績・2023 年 1～3 月期見通し

今日も 楽しい おつきあい



淡路信用金庫

調査概要

- 調査時期 : 2022 年 10～12 月期実績・2023 年 1～3 月期見通し
- 調査方法 : 当金庫の営業店職員による「聴取り」調査
- 調査企業数 : 665 社

製造業	150 社	卸売業	97 社	小売業	115 社
サービス業	115 社	建設業	141 社	不動産業	47 社
- 調査地区 : 当金庫事業地区（洲本市、淡路市、南あわじ市、明石市、神戸市、芦屋市、西宮市、
 尼崎市、加古郡稲美町、加古郡播磨町、加古川市、高砂市、三木市）
- 分析方法 : D. I.（「良い」「増加」「上昇」の回答割合－「悪い」「減少」「下降」の回答割合）
 ※不変部分を除き、「良い」「悪い」のどちらの力がどれだけ強いかを調べる方法

指標	内容	プラス	マイナス
業況	調査時点での回答企業の業況「良い」－「悪い」	良い＞悪い	良い＜悪い
売上額	前期（四半期）と比較した売上「増加」－「減少」	増加＞減少	増加＜減少
収益	前期（四半期）と比較した収益「増加」－「減少」	増加＞減少	増加＜減少
販売価格	前期（四半期）と比較した販売価格「上昇」－「下降」	上昇＞下降	上昇＜下降
仕入価格	前期（四半期）と比較した仕入価格「上昇」－「下降」	上昇＞下降	上昇＜下降
人手過不足	調査回答時点での人手「過剰」－「不足」	過剰＞不足	過剰＜不足
資金繰り	前期（四半期）と比較した資金繰り「楽」－「苦」	楽＞苦	楽＜苦

設備投資企業割合 設備投資実施の有無

例

人手不足▲50とは

人手	(1)過剰 (2)やや過剰 (3)適正 (4)やや不足 (5)不足
----	-----------------------------------

↓ 回答数を集計し、回答割合を算出

	(1)過剰	(2)やや過剰	(3)適正	(4)やや不足	(5)不足	合計
回答数	35	35	210	280	140	700
回答割合	5.0%	5.0%	30.0%	40.0%	20.0%	100.0%

$$\text{人手不足} = \underbrace{10}_{(1)+(2)} - \underbrace{60}_{(4)+(5)} = \text{▲}50$$

【問合せ先】

淡路信用金庫 業務部

担当：^{もみのき}縦木、^{みくら}三倉

TEL：0120-22-1020

業種別地区別天気図

地区 業種	全事業地区 (665先)			淡路地区 (381先)			神明地区 (284先)		
時期	2022年 7～9月 (前期)	2022年 10～12月 (今期)	2023年 1～3月 (見通し)	2022年 7～9月 (前期)	2022年 10～12月 (今期)	2023年 1～3月 (見通し)	2022年 7～9月 (前期)	2022年 10～12月 (今期)	2023年 1～3月 (見通し)
総合									
製造業									
卸売業									
小売業									
サービス業									
建設業									
不動産業									

好調← →低調

全業種

前期 今期 来期

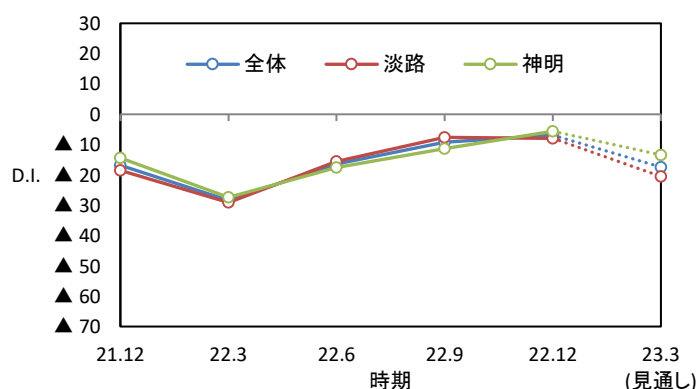
今期（2022年10～12月期）の業況判断D.I.は▲6.9となり、前期（2022年7～9月期）▲9.2に比べ2.3ポイント改善したが、依然としてマイナスの水準に留まっている。

項目別では、売上額は6.6（前期6.2）と0.4ポイント増加、収益はマイナス幅が前期比1.1ポイント改善し▲5.1となった。販売価格は31.7（前期24.8）と6.9ポイント増加、仕入価格が58.2（前期57.6）と0.6ポイント増加となって

いる。

人手不足感については▲25.0（前期▲21.7）と3.3ポイントの悪化、資金繰りについても▲7.5（前期▲6.2）と1.3ポイント悪化した。来期（2023年1～3月期）の業況判断D.I.については▲17.4と10.5ポイント悪化、他の項目でも、売上額・販売価格など悪化する見通しとなっている。

業況判断D.I.の推移（地区別）



	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	-9.2	-6.9	-17.4
売上額(前期比)	6.2	6.6	-6.9
収益(前期比)	-6.2	-5.1	-14.7
販売価格(前期比)	24.8	31.7	19.2
仕入価格(前期比)	57.6	58.2	42.9
人手過不足(過剰-不足)	-21.7	-25.0	-23.8
資金繰り(楽-苦)	-6.2	-7.5	-6.3
設備投資実施企業割合(%)	17.9	15.4	15.7

製造業

前期



今期



来期



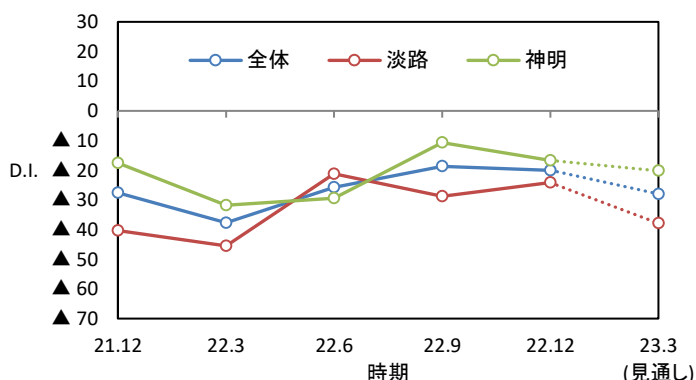
今期の業況判断 D. I. は▲20.0 (前期▲18.7) で、1.3 ㊦マイナス幅が拡大となった。地区別の業況は、淡路地区▲24.2(前期▲28.8)と 4.6 ㊦の改善、神明地区▲16.7(前期▲10.7)と 6.0 ㊦の悪化となった。来期については業況が▲28.0 と 8.0 ㊦の悪化、売上額・収益なども悪化する見通しとなっている。

お客様の声

エネルギー価格高騰により、経費が増加傾向である為、作業効率を考えて取り組んでいる。来年から忙しくなる予定であったが、コロナ再拡大の影響もあり、受注もやや先延ばしとなる予定である。(淡路)

主要取引先からの受注減少がコロナ禍より継続しており、未だ回復していない。同業者間の競争が起こるが、営業社員・役員共に新規販路開拓による販売先・販売額の増加へ取り組んでいる。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	-18.7	-20.0	-28.0
売上額(前期比)	0.0	5.3	-18.0
収益(前期比)	-11.3	-12.7	-22.0
販売価格(前期比)	26.7	33.3	20.0
仕入価格(前期比)	62.0	64.7	45.3
人手過不足(過剰-不足)	-20.0	-21.3	-18.0
資金繰り(楽-苦)	-14.0	-12.7	-11.3
設備投資実施企業割合(%)	16.0	12.7	15.3

卸売業

前期



今期



来期



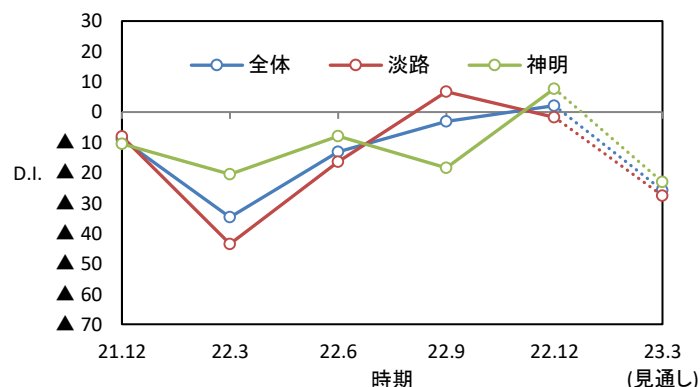
今期の業況判断 D. I. は 2.1 (前期▲3.1) となり 5.2 ㊦改善となった。地区別の業況は、淡路地区▲1.7(前期 6.7)と 8.4 ㊦の悪化、神明地区は 7.7(前期▲18.4)と 26.1 ㊦の大幅な改善となった。来期は▲25.8 と 27.9 ㊦大幅に悪化、再び低水準となる見通しである。また、売上額▲12.4、収益▲21.6 と、共に今期より大幅に悪化する見通しとなっている。

お客様の声

主要取引先の不況や、主力商品について半導体不足による納期遅れの発生などの影響もあり、売上高は停滞している。経費削減を図りながら収益の確保に取り組んでいる。(淡路)

全国旅行支援が始まり、低調であったホテル関連の売上が増加傾向にある。仕入価格については横這いであるが、ガソリン価格高騰による配送費の増加、生産者の減少による価格の上昇が懸念される。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	-3.1	2.1	-25.8
売上額(前期比)	9.2	12.4	-12.4
収益(前期比)	4.1	1.0	-21.6
販売価格(前期比)	32.7	43.3	24.7
仕入価格(前期比)	49.0	50.5	36.1
人手過不足(過剰-不足)	-4.1	-10.3	-10.3
資金繰り(楽-苦)	-8.2	-4.1	-4.1
設備投資実施企業割合(%)	22.4	17.5	15.5

小売業

前期



今期



来期



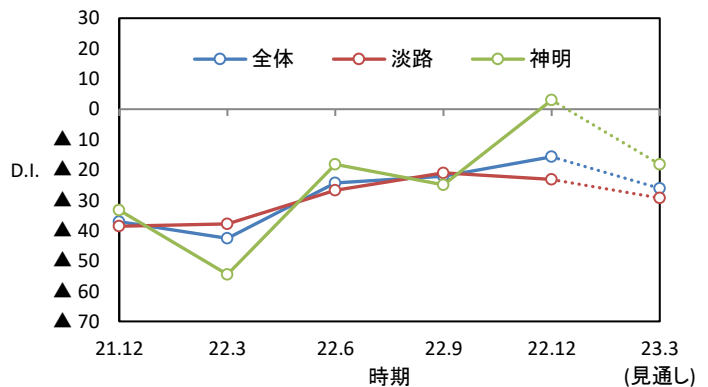
今期の業況判断 D. I. は▲15.7(前期▲22.1)となり6.4 ㊦改善となった。地区別では、淡路地区▲23.2(前期▲21.0)と2.2 ㊦悪化、神明地区では3.0(前期▲25.0)と28.0 ㊦の大幅改善となった。来期の業況は、▲26.1と10.4 ㊦悪化で、低水準にとどまる状況が続く見込みである。売上額・収益についても悪化の見通しである。

お客様の声

コロナ禍の影響により販売数量は減少しているが、販売価格が高値で推移している為、売上高は前年並みに推移している。更なる原油価格の高騰が懸念される為、値動き等の動向に注力する必要がある。(淡路)

コロナ禍で中止となっていた地域のイベントも復活してきた為、売上は回復しているが、材料費等の高騰の影響は大きく、利益確保は難しい状況が続いている。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	-22.1	-15.7	-26.1
売上額(前期比)	-3.5	2.6	-10.5
収益(前期比)	-14.2	-9.6	-19.1
販売価格(前期比)	33.6	41.7	33.9
仕入価格(前期比)	54.9	56.5	44.3
人手過不足(過剰-不足)	-14.2	-15.7	-13.9
資金繰り(楽-苦)	-8.8	-14.8	-8.7
設備投資実施企業割合(%)	12.4	11.3	14.8

サービス業

前期



今期



来期



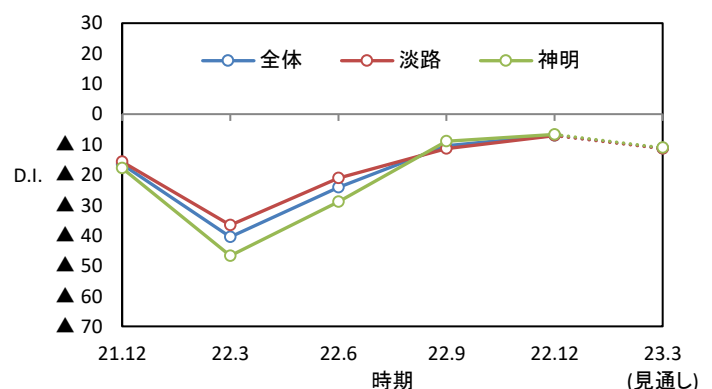
今期の業況判断 D. I. は▲7.0(前期▲10.4)となり3.4 ㊦改善となった。地区別の業況は、淡路地区▲7.1(前期▲11.4)、神明地区は▲6.7(前期▲8.9)と共に改善するものの、材料費、エネルギー価格の高騰などの影響もあり、来期の業況は▲11.3と4.3 ㊦悪化する見通しである。徐々に改善傾向にはあるが、依然として低調なである。

お客様の声

コロナウイルス感染拡大以降、減少していた宴会客は少しずつ回復傾向にあり、また宿泊プランの見直しにより売上はやや増加した。しかしながら、必要経費の上昇により利益率は低下傾向にある。(淡路)

新型コロナ再拡大の影響を受けているが、一定の受注は確保している。円安、原油高を鑑みた既存先との価格交渉、並びに新ルート・新規取引先の開拓を進める事で売上高と収益性の確保に注力している。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	-10.4	-7.0	-11.3
売上額(前期比)	13.9	2.6	-4.3
収益(前期比)	5.2	-2.6	-11.3
販売価格(前期比)	20.0	30.4	17.4
仕入価格(前期比)	54.8	61.7	47.8
人手過不足(過剰-不足)	-27.8	-32.2	-33.0
資金繰り(楽-苦)	-10.4	-10.4	-11.3
設備投資実施企業割合(%)	19.1	17.4	21.7

建設業

前期

今期

来期

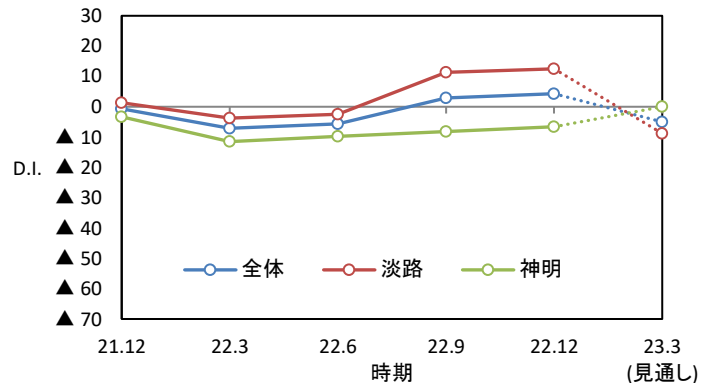
今期の業況判断D.I.は4.3(前期2.9)と1.4ポイントの増加となった。地区別の業況は、淡路地区は12.5(前期11.4)と1.1ポイントの増加、神明地区は▲6.6(前期▲8.2)と1.6ポイント改善となった。来期は▲5.0と9.3ポイント悪化する見通しである。人手過不足については▲45.4と依然として大幅なマイナスの水準である。

お客様の声

公共工事を中心に施工しており受注は安定しているが、材料価格が上昇し収益圧迫を懸念している。現在、現場作業員が人手不足であり、人材確保のため賃金引き上げなどの施策を講じている。(淡路)

地価や建築資材の高騰の影響に加え、若年層の住宅相談が減少傾向であることから、建て替えやリノベーション需要の取組みを中心に営業活動を行っていく方針である。(神明)

業況判断D.I.の推移(地区別)



(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	2.9	4.3	-5.0
売上額(前期比)	7.9	8.5	5.0
収益(前期比)	-14.3	-2.8	-6.4
販売価格(前期比)	15.0	19.9	9.2
仕入価格(前期比)	74.3	66.0	51.1
人手過不足(過剰-不足)	-41.4	-45.4	-44.0
資金繰り(楽-苦)	5.0	-0.7	0.0
設備投資実施企業割合(%)	20.0	18.4	12.1

不動産業

前期

今期

来期

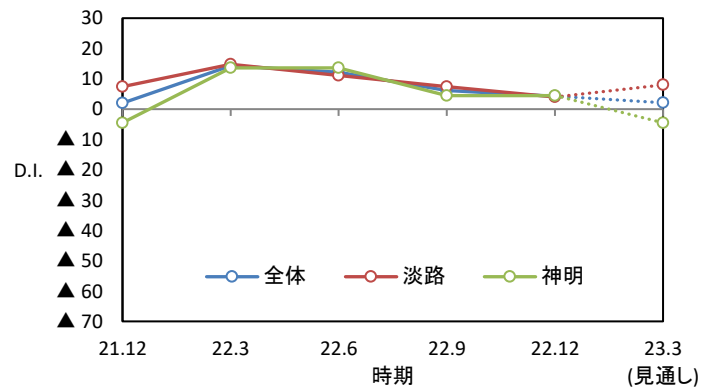
今期の業況判断D.I.は4.3(前期6.1)と1.8ポイント悪化となった。地区別の業況は、淡路地区は4.0(前期7.4)と3.4ポイント悪化、神明地区は4.5(前期4.5)で横這いであった。両地区共にプラスの水準を維持している。来期は、業況、売上額、収益など各項目で悪化する見通しとなっている。

お客様の声

入居者の入れ替わりはあるものの現状は一定の入居率を維持している。今後更なる入居率の安定化を図っていくためにも、広告宣伝や設備投資が必要になってくると思われる。(淡路)

住宅ニーズは旺盛であるが、事業用地の仕入価格は高止まりが続いており、商品在庫は不足気味。また、建築木材および住設関連の供給不足・価格高騰も当面続く見通しで、今後は事業採算性の高いリノベーションに注力していくことで、売上・収益確保を図る。(神明)

業況判断D.I.の推移(地区別)

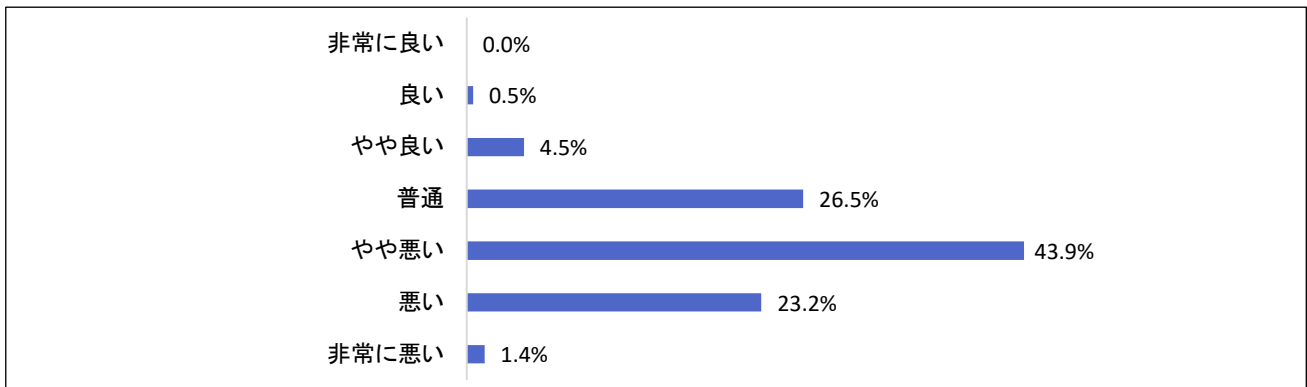


(D.I.)

	22年9月 (前期)	22年12月 (今期)	23年3月 (見通し)
業況	6.1	4.3	2.1
売上額(前期比)	18.4	12.8	6.4
収益(前期比)	4.1	4.3	0.0
販売価格(前期比)	22.4	17.0	4.3
仕入価格(前期比)	26.5	25.5	8.5
人手過不足(過剰-不足)	-8.2	-10.6	-10.6
資金繰り(楽-苦)	6.1	6.4	4.3

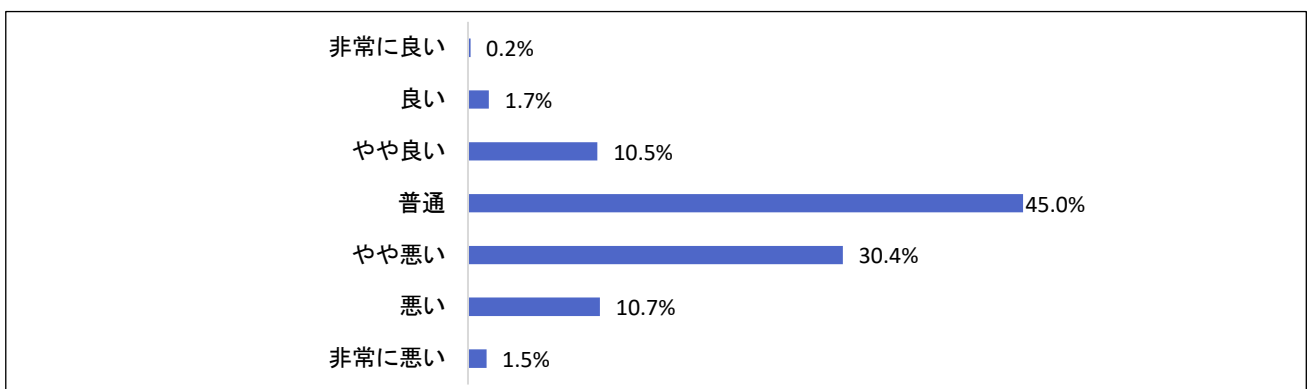
問 1 2023 年の日本の景気見通し

2023 年の日本の景気見通しについては、「悪い」（「やや悪い」・「非常に悪い」の項目を含む）の回答が 68.5% を占め、「良い」（「やや良い」・「非常に良い」の項目を含む）の回答 5%を大きく上回り、コロナ収束時期の不透明さが影を落とす。地区別では、淡路地区は「やや悪い」が最も多く 43.3%、次いで「普通」が 27.0% と回答した。神明地区も「やや悪い」が最も多く 44.7%、次いで「普通」が 26.1%と回答した。業種別ではすべての業種で「やや悪い」の割合が最も多くなっている。



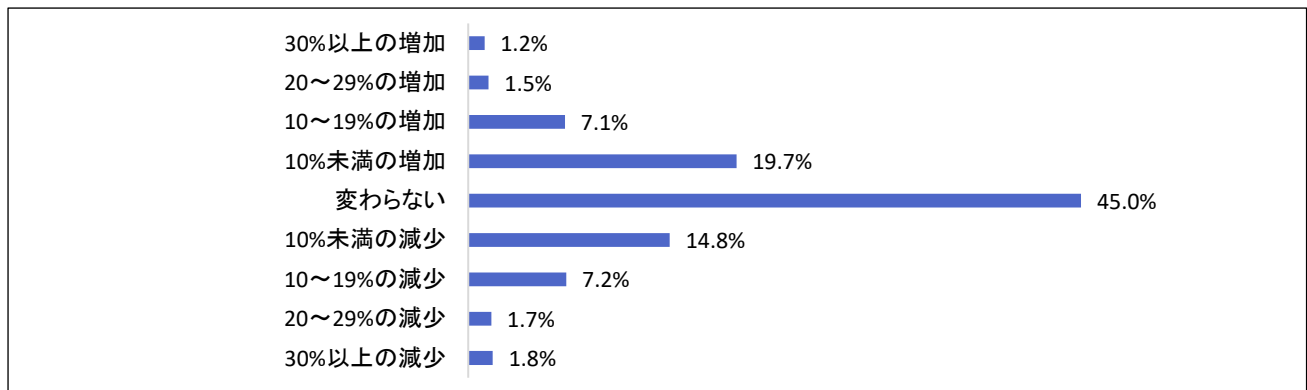
問 2 2023 年の自社の業況見通し

2023 年の自社の業況見通しについては、一番多かった回答が「普通」の 45.0%、「悪い」（「やや悪い」・「非常に悪い」の項目を含む）の回答は 42.6%となっている。一方、「良い」（「やや良い」・「非常に良い」の項目を含む）の回答は 12.4%に留まる。地区別でも、淡路地区、神明地区共に「普通」の回答が一番多く、業種別では、小売業は「やや悪い」が最も多いが、その他の業種は「普通」の回答が一番多かった。



問 3 2023 年の自社の売上高伸び率見通し

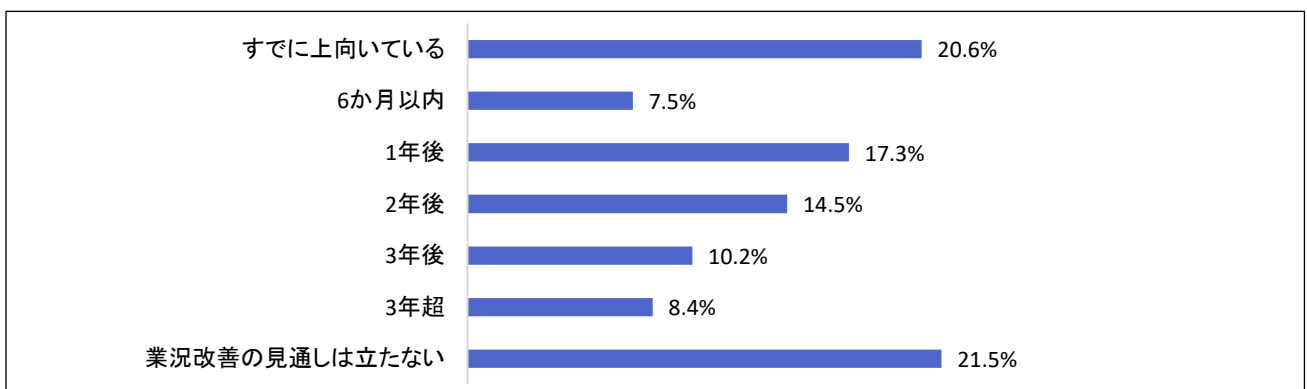
2022 年対比で 2023 年の売上額の伸び率については、「変わらない」と回答したのが 45.0%と最も多く、前年比「増加」項目の合計割合が 29.5%を占めた。一方で前年比「減少」項目の合計割合は 25.5%となっている。地区別についても淡路地区・神明地区でそれほど差はなく「変わらない」の項目が一番多くなっている。業種別については全業種が「変わらない」の回答が最も多くなっているが、卸売業だけが「増加」項目の合計より「減少」項目の合計が上回っている。



問 4 自社の業況が上向く転換点

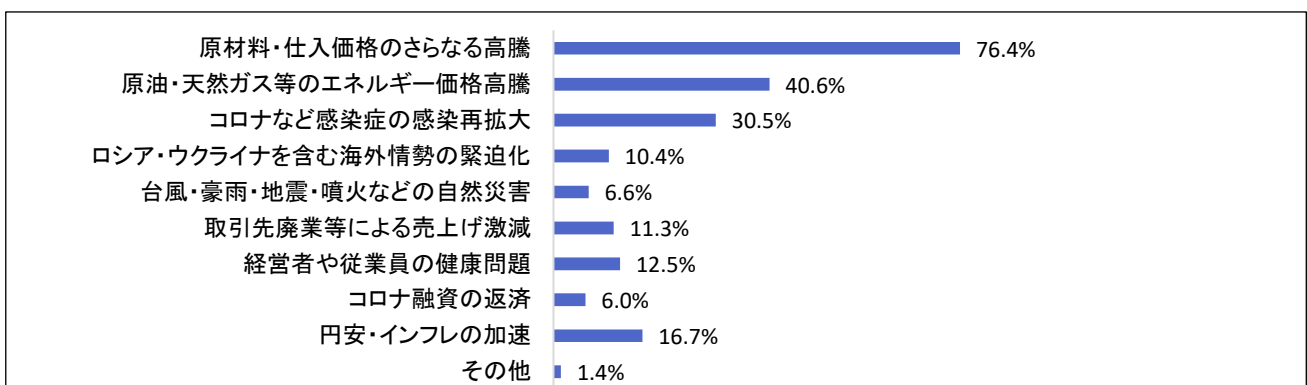
自社の業況が上向く転換点については、「業況改善の見通しは立たない」が 21.5%と最も多かった。

次に多かったのが「すでに上向いている」で 20.6%。地区別では、淡路地区は「業況改善の見通しは立たない」の項目が最も多く 23.1%、次いで「すでに上向いている」の項目が 18.9%となった。神明地区では「すでに上向いている」の項目が 22.9%と最も多く、次いで「業況改善の見通しは立たない」の項目が 19.4%であった。業種別では、製造業・小売業・建設業が「業況改善の見通しは立たない」の割合が最も多くなっている。



問 5 事業環境を展望したときの経営リスク

事業環境を展望したときの経営リスクについては、「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が 76.4%と最も多く、次いで「原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰」が 40.6%、「コロナなど感染症の感染再拡大」が 30.5%と続いた。地区別では、淡路・神明地区共に「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が最も多く、業種別においてもすべての業種において「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が最も高い割合となった。



株式会社 関海事工業所



1906年創業の株式会社関海事工業所は日本全沿岸の海底ケーブル敷設や、修理を行っています。

現在は洋上風力発電建設に伴う海底ケーブル敷設に挑戦しています。温室効果ガスを削減し脱炭素社会を目指すことは、もはや他人事ではなく、国や自治体、企業、個人の誰もが取り組まなければならない課題だといえます。

今、日本は脱炭素社会へ向けた“ホンキ”の取り組みをスタートさせました。その取り組みの柱となるのが、再生エネルギーへの転換で普及の鍵となるのが「洋上風力発電」です。今まさしく我社はその最前線で奮闘しています。

離島の人々の暮らしを支えるのが、関海事の使命と捉え、日々業務を遂行して来ました。これからもその理念は1mmも変わりません。その海底ケーブル関連工事実績や技術をフルに生かし、これからの日本のエネルギー転換、「2050年温室効果ガスの排出を実質ゼロ」＝「脱炭素社会の実現」のために、海底ケーブル建設工事を通じて、大きく関わっていきます。

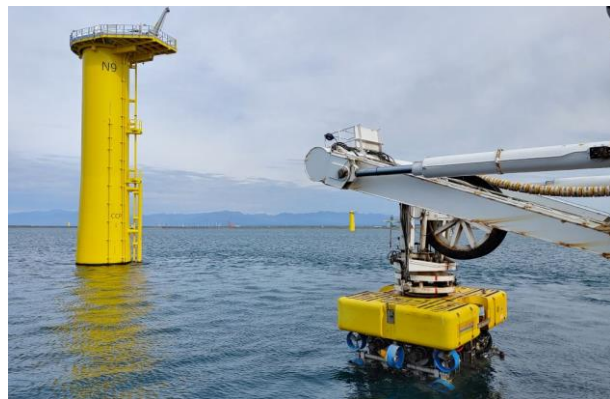
【アクセス】

本社

住所：〒656-2401 兵庫県淡路市岩屋 1080 番地
TEL：0799-72-3174 FAX：0799-72-4724

【WEB サイト】

<http://sekikaiji.co.jp>



社会から必要とされる企業、社会に貢献できる企業を追求し続けて参ります。

【関海事の海底力 そちから】で。



津名 DEPOT

住所：〒656-2225 兵庫県淡路市生穂新島 5-7
TEL：0799-64-1120 FAX：0799-64-1130

わたしたちのマチの元気企業 ③0

AREZZO

le scarpe giapponesi

AREZZO は神戸発のシューズブランドです。

トレンドを効かせたベーシックなデザイン

“毎日履き”できる心地よさを大事に

裁断、縫製、仕上げまで一貫した職人の手仕事で

一つひとつ靴づくりをしています。

イタリアにこんなことわざがあります。

「靴は人をあらわす」

靴＝自分だとしたらフィットするものもいい。

それは足にも気分にも。

40 年近く靴をつくり続けてきた私たちは

靴の可能性を信じ

伝統を未来へ、世界へと紡いでいきます。



AREZZO QUALITY

— 高品質 —



SOFT & FIT

— 履き心地 —



CRAFTSMANSHIP

— 職人技 —



facciamo
made in kobe

Facciamo (ファッチャーモ) はイタリア語の“やっちゃおう”

わたしたちの 40 年の靴づくりから新しいことを「やっちゃおう」という思いから生まれたブランドです。高くても良いもの・安くても良いものがたくさんある時代で正直で、わたしたちは正直で素直な神戸仕立ての靴を提案します。



la Gomma
made in japan

イタリア語の Gomma (ゴム) = ゴムに由来した縦横無尽に伸びるストレッチ素材を使用した la gomma は足と一体化するストレスフリーの履き心地で、大人のリラックスカジュアルを楽しめます。豊富なカラーバリエーションはタウンユースをベースに、旅先や和装にだっておすすめ。

株式会社アレツォ

【代表取締役】水谷 義臣

【設立】2007 年 1 月

【事業内容】天然、人工皮革による婦人・子供靴の企画、製造、卸、販売、オンラインショップの運営

【本社】兵庫県神戸市長田区大橋町 2-3-2 TF ビル 2F TEL/078-646-9622 FAX/078-646-9632

【東京事務所】東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-21-5 ナカビル 3F TEL/03-6721-1941 FAX/03-6721-1946

【お取引先】株式会社アーバンリサーチ 株式会社オギツ 株式会社千趣会 ダイアナ株式会社
株式会社フェリシモ 株式会社バイクルーズ 三起商行株式会社 株式会社ユナイテッドアローズ他



web



instagram